

ICTを活用した新たな街づくり における類型化の考え方

目次

1. データオブジェクトやサービスチェーンに着目した類型※に沿った考え方 . . . P1

2. データオブジェクトやサービスチェーンに着目した類型※とは別の考え方 . . . P2

3. その他 . . . P4

参考:ICTを活用した新たな街づくりに関する類型化・検討軸 . . . P5

※ ICTを活用した街づくりとグローバル展開に関する懇談会（第2回会合）村上構成員説明資料及び
ICT街づくり推進部会（第5回会合）（株）野村総合研究所志村上席研究員説明資料【別紙2参照】

1. データオブジェクトやサービスチェーンに着目した類型に沿った考え方

1

(1) 考え方を具体化するもの

- ☞ 5類型それぞれについて、次が重要。①「新産業創出型」として、農水産業の6次産業化による地域活性化、②「新サービス創出型」として、病院等の関係機関のシームレスな連携による個人に最適な医療福祉の提供、③「新サービス創出型」及び「ソーシャルコミュニティ型」として、都市と郊外の格差是正・住民交流による生活の質の向上、④「新サービス創出型」として、職業訓練や進路指導等における関係機関の連携による雇用・労働の安定化、⑤「新サービス創出型」として、外国人観光客等への情報提供等による地域振興。【横須賀市】
- ☞ 社会的効果を実感できる単位として、5類型をベースとした街づくりにおける構成要素である①第6次産業等の「バリューチェーン革新で産業育成」（「新産業創出型」相当）、②新しい観光産業等の「新サービス創出で魅力ある街づくり」（「新サービス創出型」相当）、③「個を繋いでコミュニティの活性化」（「ソーシャルコミュニティ型」相当）、④スマートX等の「都市インフラ・フローの最適化」（「都市センシング型」相当）、⑤優しいUIや変化の自動検知等の「シンバイオシス＝街と人の共生」（「まちづくりマネジメント型」相当）に加え、⑥共通ID・連携等の「街を支える新しい公共」（G2G）、そして、⑦事業継続等の「相互補完」（City2City）の2つを追加。【日本電気】
- ☞ 5類型と大都市・中都市・過疎地域等の街の規模との関係について、同類型における「新産業創出型」の各事例を検討する範囲では、同類型は街の規模に依存するよりは、街のニーズ、採算性における資金の流れ（街の中で循環、街から流出、街に流入）、そして、同流れとおよそ一致する情報・通信の流れの向きに依存。従って、類型化にあたっては、情報・通信における①「循環型」、②「発信型」、③「流入型」に意義がある。【三菱電機】

(2) 類型を追加するもの

- ☞ 5類型の導入（展開）にあたり、①「新たな街づくり（復興・新興国）モデル」と②「既存の街への実装による発展型モデル」の2つのモデルに分けた検討が必要。また、各類型において導入するソリューションについて、①地域コミュニティ単位、②地方自治体単位、③広域連携単位等の規模や主体の整理が必要。【富士通】

2. データオブジェクトやサービスチェーンに着目した類型とは別の考え方①

2

- ☞ 昨年の東日本大震災災害による他、少子高齢化、産業構造の変化、都市部と農村部の格差拡大等により、学校、職場、共通の趣味等の様々なコミュニティの維持が困難になっていることを踏まえ、**シンプルで使いやすい(ユーザーフレンドリーな)ICTの活用による行政・住民・企業・NPO等関係者による「共助」の仕組みを構築する観点から、「コミュニティの再生に向けた視点」による類型化も重要。**【住友商事】
- ☞ 類型化としては、①「**更地からの街づくり**」と②「**今ある街を前提**」とする場合において、取り組み方が異なる。また、対象とする**街の規模**により、類型化が変わる。【情報通信ネットワーク産業協会】
- ☞ サービス内容に着目した類型化により個々のサービスを切り出すのではなく、**現実の街は複数のサービスの有機的な統合による観点から、街の大きさを中心とした類型化**が扱いやすい可能性がある。その際、街の大きさについては、**人口規模の切り口として、大、中、小、極小の4セグメント**に分け、各セグメントについて**産業面や移住面**で切り分けてマトリックス化。【東芝】
- ☞ **街の規模は重要な要素**であるが、**街の特性の本質面への着目**が必要。「**寝る・働く・消費する・公共サービスを受ける(医療・教育を含む)**」という生活の**主要な要素**がその街で完結しているかどうかという観点による**類型化**が重要(規模の大小と街の機能は必ずしも一致しない)。この点、例えば、**昼夜間人口の比較と規模に応じた類型化**によると、①**地方都市**、②**工業都市**、③**農林漁業**、④**ベッドタウン**、⑤**地方都市の周辺市町村**、⑥**都心**、そして、⑦**観光都市**に別れ、それらの類型においては、**高齢化率や人口増減率**等が比較的共有可能。【日本ケーブルテレビ連盟】
- ☞ 街の条件により異なるモデルが存在するため、**地方公共団体においては、自らがどのモデルに位置するか把握し易いことが重要**。この点、現在の街の状況のみならず、**街全体の人口動態、高齢化率の傾向から将来を見据えた街の成長・成熟を加味**することにより、①**成長都市**、②**大都市**、③**地方都市**、④**成熟都市の4つのモデル**を検討。そ各モデルについて、医療・福祉、防災・防犯、環境、交通、地域活性、教育、そして、サービス基盤等のICT利活用分野におけるソリューションを検討。【東日本電信電話】

2. データオブジェクトやサービスチェーンに着目した類型とは別の考え方②

3

- ☞ 東北被災地については、①都市部(ニュータウン建設・周辺エリアからの人口流入を踏まえ、スマートタウンを目指すモデル)、②沿岸部(地域産業も被害・高齢化の進展を踏まえ、コンパクトタウンを目指すモデル)という軸。また、被災地以外の地域については、①商業エリア隣接、ビジネスエリア隣接、住宅地等の都市部、②郊外住宅地、過疎化進行地域等の農村部という軸。【パナソニック】
- ☞ 類型化にあたっての新たな視点として、①勤務者、観光客、若者や高齢者等の誰が受益者であるかという「ターゲットの視点」、②生活密接等の公益性の高いものからゆとり生活等の個人レベルの分野までのどんな次元のサービスなのかという「サービスレベルの視点」、③インフラの整備・維持等のどうサービス提供を継続するかという「費用負担の視点」の3点から検討することにより、「ニーズとシーズのマッチング」や「継続性」を考慮した街づくりを目指すことが重要。【つくば市】
- ☞ ASEAN諸国等における新しい産業集積による都市開発の進展等を踏まえ、マズローによる欲求階層の観点による①自己実現:産業の街(工業、商業、農業、林業、水産、観光、大学、教育、創造等)、②尊敬享受:尊敬される街、愛着のある街、③所属感:住民自治、コミュニティ参加・協働、④安全性:防災、環境、医療、安心・安全、見守り、⑤生理的欲求:イメージしやすい街、体で覚える街、音や匂いなど五感に訴える街、食・住・遊という5つの街のコンセプトにおけるICT活用可能性と類型化。【三菱総合研究所】
- ☞ 「ICTを活用した街づくり」には、①現実の「街」を構成する様々な要素をICTの活用により「センシング」・「データ化」し、「クラウド上のデータベース」に蓄積する観点から、「街」を仮想化するデータベース、②これらのデータの分類・集計・分析により「街」をある視点から見た「評価モデル」を作る観点から、「街」を評価するモデル、そして、③この「評価モデル」を現実の「街」にフィードバックする「アプリケーション」を開発・整備・運用する観点から、「街」に適用されるアプリケーションの3つの要素がある。この点、どのような視点で「街」を見ることが重要であるかを表すため、値と分布、その分析手法等から「街」の代表的な評価モデルをいくつか挙げることで類型化として必要。【日本放送協会】

☞ 街づくり（行政）へのICT高度活用について、医療、教育、暴政、介護や住民等の分野における従来のICT活用レベル（ツールのな個別活用）から、センサーネット、ビッグデータ、マイナンバー、ソーシャル等のICT的イネブラーによる①「都市（街）経営」系及び②「オープンガバメント」系の実現が重要。

【KDDI】

☞ ICTを活用した街づくりにおいて、目指す都市像（構想）を取りまとめるためには、立場・見解が相反する多くのステークホルダーの共感・納得を得る必要があり、ステークホルダーの共通イメージを固めることが重要。【日本アイ・ビー・エム】

☞ ICT街づくりにおいては、クラウド化・共有化されたライフログ・マシンログが中心となるビッグデータの利活用が重要。【ソフトバンクテレコム】

構成員からの提出資料のうち、ICTを活用した新たな街づくりにおける類型化・検討軸に関するものは次のとおり。

- ☞ ①「循環型」、②「発信型」、③「流入型」という情報・通信に関する軸
- ☞ ①「新たな街づくり（復興・新興国）モデル」と②「既存の街への実装による発展型モデル」という軸、①「更地からの街づくり」と②「今ある街を前提」という軸
- ☞ ①地域コミュニティ、②地方自治体、③広域連携等の規模・主体単位という軸
- ☞ コミュニティの再生に向けた軸
- ☞ 街の規模という軸（現実の街は複数サービスの有機的な統合という観点）
- ☞ ①一次産業、②二次産業、③三次産業という産業面の軸（街は複数サービスの有機的な統合という観点）
- ☞ ①飲食店舗数、②小売店舗数、③百貨店舗数、④医療施設数、⑤介護老人福祉施設数、⑥保育所数という居住面の軸（街は複数サービスの有機的な統合という観点）
- ☞ 東北被災地における①都市部（ニュータウン建設・周辺エリアからの人口流入を踏まえ、スマートタウンを目指すモデル）、②沿岸部（地域産業も被害・高齢化の進展を踏まえ、コンパクトタウンを目指すモデル）という軸。被災地以外の地域における①商業エリア隣接、ビジネスエリア隣接、住宅地等の都市部、②郊外住宅地、過疎化進行地域等の農村部という軸

（次頁に続く）

- ☞ ①地方都市、②工業都市、③農林漁業、④ベッドタウン、⑤地方都市の周辺市町村、⑥都心、⑦観光都市という昼夜間人口の比較等の軸（「寝る・働く・消費する・公共サービスを受ける（医療・教育を含む）」という生活の主要素が街で完結するかという観点）
- ☞ ①成長都市、②大都市、③地方都市、④成熟都市という高齢化率や人口増減率等の傾向による将来を見据えた街の成長・成熟の軸
- ☞ ①市民、②勤務者、③観光客、④子供、⑤学生、⑥コミュニティ、⑦高齢者等の「ターゲットの視点」（「ニーズとシーズのマッチング」や「継続性」を考慮した街づくりという観点）
- ☞ ①生活密接、②利便性向上、③ゆとり生活という「サービスレベルの視点」（「ニーズとシーズのマッチング」や「継続性」を考慮した街づくりという観点）
- ☞ ①インフラの整備、②インフラの維持の「費用負担の視点」（「ニーズとシーズのマッチング」や「継続性」を考慮した街づくりという観点）
- ☞ ①自己実現：産業の街（工業、商業、農業、林業、水産、観光、大学、教育、創造等）、②尊敬享受：尊敬される街、愛着のある街、③所属感：住民自治、コミュニティ参加・協働、④安全性：防災、環境、医療、安心・安全、見守り、⑤生理的欲求：イメージし易い街、体で覚える街、音や匂いなど五感に訴える街、食・住・遊という5つの街のコンセプト
- ☞ 「街」の構成要素のデータに関する①量や質等の値、②時間、位置、属性等の分布、③分析手法等という軸（「街」に適用されるアプリケーションの開発・整備・運用の観点）